

児童生徒の表現力を高める指導の在り方～道具の扱いをとおして～

	9年間の表現の学習内容	児童生徒に身につけさせたい力	道具の扱いについて (○教師の働きかけ、◆ルール)	カリキュラム改善の視点 (指導上、特に留意・工夫していくこと)
小学 1年	<p>(工) 「チョッキンパッドかざろ う」</p> <ul style="list-style-type: none"> 折った折り紙を、切り込みを入れたり切り抜いたりして開き、試しながら様々な形をつくりだす。 つくった形を紙に貼ったり窓や壁に飾ったりして、形の違いや友達の表現の良さを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙の折り方や切り方、飾り方を工夫することで、形や色、材料を工夫することができる。 つくりたいもののイメージを持ち、紙を折ったり切ったりして表現することができる。 安全に気を付けてはさみを使うことができる。 	<p>【はさみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はさみの正しい使い方を指導する。 ◆紙を切るときは、はさみを動かすのではなく紙を動かす ○危険な使い方をしないように指導する。 ◆はさみは自分の机の上のみで使用する。 ◆人にははさみを渡すときは、刃先を下にして手で包むようにして持つ。 ◆使わないときは、必ずカバーを付ける。 ◆切りながら話をしたりよそ見をしたりせず、紙などを切り終わるまで集中する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を活用し、紙を持つ手やはさみの使い方を全員に見せながら指導する。 ・安全に対する意識を高めるために、実際に怪我をしてしまった事例を示しながら安全な使い方の指導をする。 ・はじめに教員が切って成功や失敗を見せたり、友達の作品を全体に共有したりすることで、表現への意識を高める。 ・作品を画用紙などの紙に重ねて貼ったり、壁や窓に飾ったりすることで、形のちがいを楽しませる。
小学 2年	<p>(工) 「カッターナイフタワー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 色画用紙にカッターナイフで切り込みを入れ、試しながら様々な模様をつくる。 組み立て方を工夫して、切った画用紙を立てた状態で台紙に貼る。 つくった作品を鑑賞して、互いの作品の良さを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフによる紙の加工の良さを知り、味わいながら工作を楽しむことができる。 ・安全で正しく紙を切る技能を身に付けることができる。 ・紙に切り込みを入れ、それらを立体的に飾り表現することができる。 	<p>【カッターナイフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カッターナイフの正しい使い方を教える。 ◆刃の鋭い部分を下にして、鉛筆と同じように持つ。 ◆カッターナイフを寝かせたまま、肘を引くように手前に引く動作で紙を切る。 ○危険な使い方をしないように指導する。 ◆刃は1～2目盛りだけ出す。 ◆刃が進む方向に手を置かない。定規を使うときは、定規から指が出ないようにする。 ◆絶対に刃を人に向けない。 ◆使わないときには刃をしまっておく。 ◆無理に力を入れて切ろうとしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に刃が古くなっていないか確かめ、必要に応じて刃を替えておく。 ・はじめにカッターナイフを使ってつくった作品を児童に見せ、興味をもたせる。 ・実際に怪我をしてしまった事例を示しながら、安全な使い方を指導していく。 ・実物投影機を使い、紙を押さえる手を置く位置を確かめる。 ・自分が表したいもののイメージをもってから作品をつくるように指導する。 ・様々な表現方法を知ることができるよう、紙の切り方や立て方を工夫して表現している児童を全体に共有する。
小学 3年	<p>(立) 「のこぎりギコギコ、そして」</p> <ul style="list-style-type: none"> のこぎりで角材をまっすぐ切ったり斜めにきったりしてたくさん集め、組み合わせたり積み方を工夫して接着剤で貼り立体に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりを正しく安全に使うことができる。 ・自分のつくりたい形を考えて切る事ができる。 ・のこぎりを自由に使い、切る活動を楽しむことができる。 ・木ぎれを壊れないように面白い組み合わせで重ねることができる。 	<p>【のこぎり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○のこぎりの用途、各部分の名称を教える。 ◆広い場所で扱う。 ○安全でうまく切る為のポイントを示す。 ◆始めと終わりに本数を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりを初めて使うので、抵抗感を弱めるため、片刃で小ぶりのものを用いる。 ・のこぎりを正しく使えているか、机間巡視する。 ・のこぎりの用途、各部分の名称を学習する際は、板書で図を見せる。 ・角材の太さや長さを適切にして与える。 ・危険な場面では、活動を止めて全員に注意を促す。

<p>小学 4年</p>	<p>(絵・版) 木版画 「森のふくろう」 ・彫刻刀で版木を彫り、自分らしいふくろうを版画で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀で形を表す事を踏まえて、太く分かり易い下絵を描くことができる。 ・彫刻刀を正しく安全に使い、扱いに慣れて楽しんで使うことができる。 ・彫刻刀の彫り跡の違いによって、彫る場所と刀を使い分けることができる。 ・主題が分かり易いように彫ることができる。 ・インクの量に注意してきれいに刷り上げることができる。 	<p>【彫刻刀】 ○彫刻刀の用途、名称、持ち方、彫り方、について順を追って説明する。 ○持ち方、彫り方について手作り教具や実物投影機を使って分かり易く師範する。 ○特に彫刻刀を持たない方の手の置き方に注意させる。 ◆滑り止めマットを敷く。 ◆疲れた指の休憩をとる。 ◆授業以外の時は全員分図工室で預かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵を描く際、自分らしさや版画にした時の分かり易さを意識するよう声かけをする。 ・実物投影機で手の動かし方を説明する。 ・彫った面の白黒をはっきりさせる。 ・彫り跡の深さ、インクの量、ゴミなどに留意して効果的に刷るよう声かけをする。 ・机間巡視、個別指導、全体の作業をよく見渡す。
<p>小学 5年</p>	<p>(立) 「段ボールで、試して、つくって」 ・段ボールの材料としての可能性を色々試しながら、それらがつくり出す形の特徴をとらえ、自分の表したいイメージをもって表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの折り曲げ方や組み合わせ方を試したり、見つけたりして、豊かに発想・構想することができる。 ・段ボールカッターやカッターナイフ、はさみなど、安全に気をつけながら使いこなすことができる。 	<p>【段ボールカッター/カッターナイフ/はさみ】 ○木工接着剤でしっかりと接着できるよう、洗濯ばさみやクリップを活用させる。 ○用具の安全な扱い方を示範する。 ◆カッターマットを敷く。 ◆刃は1～2目盛りだけ出す。 ◆刃が進む方向（縦）を守る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールを折ったり、曲げたり、はがしたりする活動をとおして、材料の特徴や良さ、様々な可能性を見つけるよう促す。 ・段ボールをたくさん用意して、子どもたちが思い切り使えるようにする。 ・自分や友だちの考えを尊重し合い、互いの良さや面白さを味わわせる。
<p>小学 6年</p>	<p>(工) 「わたしはデザイナー/12さいの力で」 ・板材をもとに、何かを入れて使ってみるものをつくる。 ・誰が、いつ使うのか、どんな材料か、どんな方法でつくるかなどの構想を練る。 ・つくりたい想いを十分にふくらませてつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具を選び、自分の思いや願いに合わせて、使ってみるものをつくる。 ・使用する板に木取りをして、のこぎりで板を切ることができる。 ・釘や接着剤などで板を組み立てることができる。 ・彫刻刀を使い分け、模様を浮か彫りにすることが出来る。 	<p>【電動糸のこぎり/のこぎり/彫刻刀/金槌】 ○電動糸のこぎりやのこぎりの使い方など既習事項を確認し、安全指導をする。 ○道具の扱いを示範し、理解させる。 ○彫刻刀（切り出し刀・平刀・三角刀・丸刀）の種類やその扱いについて示範し、理解させる。 ◆両手でしっかり押さえ、ゆっくり切る。（電のこ） ◆広い場所で行う。（のこぎり） ◆刃が進む方向に、手を置かない。（彫刻）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫し具体的に表現させる。 ・いろいろな製品の実物や写真を見せ、様々なデザインのことを参考に見せる。 ・友だちと自分の発想や表し方の違いに気づかせ、互いの良さを認め合わせる。

※ (遊) 造形遊びをする活動、(絵) 絵に表す活動、(絵・版) 絵に(版画に)表す活動、(立) 立体に表す活動、(工) 工作に表す活動、(鑑賞) 鑑賞する活動

<p>中学 1年</p>	<p>【表現】木彫「木彫手鏡」</p> <ul style="list-style-type: none"> 用途や機能、使う人の気持ちを考えて構想を練る。 実用性と美しさの調和や、材料の特徴を生かした工芸品の良さを味わう。 生活を美しく心豊かにする木の魅力に気づき素材の特性をいかす。 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀を正しく扱い、それぞれの図柄に応じて様々な彫りで表現することができる。 (主に切り出し刀、場合に応じて平刀・丸刀・三角刀) 彫りの種類を表現に応じて使いわけることができる。 薬研彫り 片切り彫り 菱合い彫り 石目彫り かまぼこ彫り 浮き彫り 線彫り 木材工芸としての実用性と美しさを意識した図柄の構成を練ることができる。 	<p>【彫刻刀】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校で学習したことをふまえ、改めて、彫刻刀の種類、持ち方、彫り方を説明する。 ○道具や材料の準備、作業の進め方、安全面については徹底してルールを守らせる。 ◆滑り止めの押さえ板を使用する。 ◆彫刻刀を持つ効き手と反対の手を必ず添える。 ◆私物の彫刻刀を持っている場合、制作期間中は美術室保管とする。教室のロッカーやかばんに入れておかない。 ◆基本的にはメンテナンスされた美術室の彫刻刀を借りる。 ◆彫刻刀を持っている場合でも、メンテナンス不足で刃が傷んでいるものは使わない。 ◆彫刻刀を持っている手の力ではなく、添えている手の押す力で彫る。 ◆基本的に手首は板に固定し、彫刻刀の可動域を極力狭くする。 ◆使っていない彫刻刀はケースにしまうかキャップをする。 ◆彫刻刀を持ったまま話したり、よそ見したりしない。 ◆「けがをしない、させない」を守る。 ◆けがはすぐに申告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を用いて彫り方等大きく見せるが、画面上での情報が頭に入りにくい生徒もいるため、机間指導を行い、目の前で実際にやってみせる。 導入で木彫の知識を学習し、同時進行で図柄のアイデアスケッチを宿題で進める。 彫刻刀や彫り方の知識を学習する時間の後、デザインをチェックし、授業時間内では考えたりする時間を設けない。→実際にはデザインチェックのやりとりの中でアドバイスを必要なので、クラス全員のアイデアを50分では見きれないことがほとんど。宿題でデザインを進めていない生徒は順番待ちの時間で描いている。※できればすぐにデザインにOKを出せるようにしたい。参考作品の写真を印刷したりデザインのポイントを解説した資料プリントを用意したりする。学習発表会で展示後の前年度作品のうち優秀なものを参考作品として美術室内に置いている。 彫りに入る直前に再度実演と練習の時間を設ける。
<p>中学 2年</p>	<p>【表現】螺鈿工芸「琳派に学ぶ～八角小箱の制作～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 用途や機能、使う人の気持ちを考えて構想を練る。 琳派の洗練された意匠から、工芸品の持つ用と美の調和を意識した構想を練る。 螺鈿の特性を知り、材料の生かし方を考え創意工夫して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料(ホログラムシート)の特性を把握し、彫刻刀またはカッターナイフを正しく扱い小箱に装飾をすることができる。 工芸品の実用性と美しさを生かす構想を練ることができる。 (導入)「狩野派と琳派」を学習し、日本の伝統的な美術作品と現代にも通じる琳派の洗練された意匠を知ること、作品のデザインに生かすことができる。 	<p>【カッターナイフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カッターナイフと彫刻刀の違いについて改めて説明し、材料の扱いが正しく行えるように指導する。 ◆カッターナイフと彫刻刀は刃の切れる位置が異なる。 ◆基本的には美術室保管の彫刻刀を使用する。 ◆カッターナイフを使用する場合は個人で持ってきてよいが、美術の時間外、美術室外では使用しない。 <p>※実際の螺鈿工芸よりも簡単に作業ができるよう、貝殻の真珠層に見立てたホログラムシートを用いて、黒生地<small>の八角小箱に螺鈿風の装飾をさせる。</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際の螺鈿工芸について、制作過程を見たり、参考作品を見たりする機会を設けるようにする。 導入で座学の時間を確保する際に生徒の活動が少なくなるため、制作時間やデザインを考える時間とのバランスを考えつつ、より興味・関心を持って琳派などの学習に主体的に取り組めるよう、授業展開を工夫する必要がある。 <p>※1,2学年の積み重ねで安全であると判断し、信頼して使用させていること、問題があれば今後一切使用できない点と、学年全体だけでなく、次の学年、学校全体に迷惑がかかってしまうということを徹底して説明する。</p>
<p>中学 3年</p>	<p>【表現】「スクラッチ絵皿」</p> <ul style="list-style-type: none"> 下絵を皿にトレースし、絵皿にして仕上げる。 ペン画とはちがうスクラッチ絵皿の特性を生かし、創意工夫して表現する。 	<p>スクラッチならではの表現を知り、創意工夫をしながら表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ニードルを正しく扱い、中間色やタッチをいかしたスクラッチの表現をすることができる。 	<p>【ニードル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニードルの扱いについて説明する。 ◆これまで用いた刃物類と同様に安全第一で使用する。 ◆ニードルの取り扱いについてはカッターナイフや彫刻刀の扱いと同様に、安全面に十分注意するよう指導するが、キャップをした状態で個人保管とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を用いて、ニードルの角度や刃の向きなどで、様々な表現ができることを示す。 <p>※学校、学年の実態として、道具の扱いにおいては安全であると判断できるので、ニードルは各生徒に配布、個人管理とし、皿と一緒に持ち帰って作業出来るようにしている。 ※学校の現状に合わせて変えていく必要がある。</p>

